北広島市地震ハザードマップ

地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れとなった場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表したものです。「危険度」は、地震時に全壊する建物の割合を表示したものです。

なお、危険度マップは、地震による個々の建物の危険度を表したものではなく、各地域の建物被害を相対的に表示したものです。

危険度の区分

危険度は、建物の構造（木造・非木造）や建築年次により区分し、地域（町丁目）ごとで建物の全壊する割合（建物全壊率）を算出したものです。震度が同一の場合では、古い建物や木造の建物が多い地域ほど、建物全壊率が高くなります。

危険度	建物全壊率
1	0 ～ 1％
2	1 ～ 2％
3	2 ～ 4％
4	4 ～ 6％

（平成20年1月1日現在）

地震発生時の行動のポイント

緊急地震速報 又は 地震発生

最初の大きな揺れから身を守る

●まず、身を守る
机の下などへ。あわてて外へ飛び出さない。
●すばやく火を消す
危険が伴うので無理はしない。
●脱出口を確保する
ドア、窓を開ける。家がゆがむと開かなくなることがある。

発生 1～2分

揺れがおさまったら まず火の始末

●火元を確認する
火が出たら落ち着いて初期消火。
●家族の安全を確保する
倒れた家具の下敷きなどでケガをしていないか。
●靴をはく
室内に散乱したガラスの破片などから足を守る。
※がけ崩れのおそれがある地域はすぐ避難

発生 3分

隣近所の安全確認 火災の発生を防ぐ

●隣近所に声をかける
けが人・行方不明者の確認、救出・救護。
●近所に火が出ていたら初期消火
大声で知らせる。
消火器を使う。
バケツリレーをする。
（普段から、風呂に水をためておく）
●余震に注意

発生 5分

ラジオなどで正しい情報を入手

●正しい情報をつかむ
ラジオや市役所、自主防災組織の情報を聞く。
●電話はなるべく使わない
緊急連絡電話が優先。安否確認は
「災害用伝言ダイヤル171」で。
●家屋倒壊などの危険があれば避難
避難をするときはガス栓をしめ、ブレーカーを落とす。

発生 10分 / 発生 数時間 / 発生 3日くらい

協力して消火 救出・援護活動

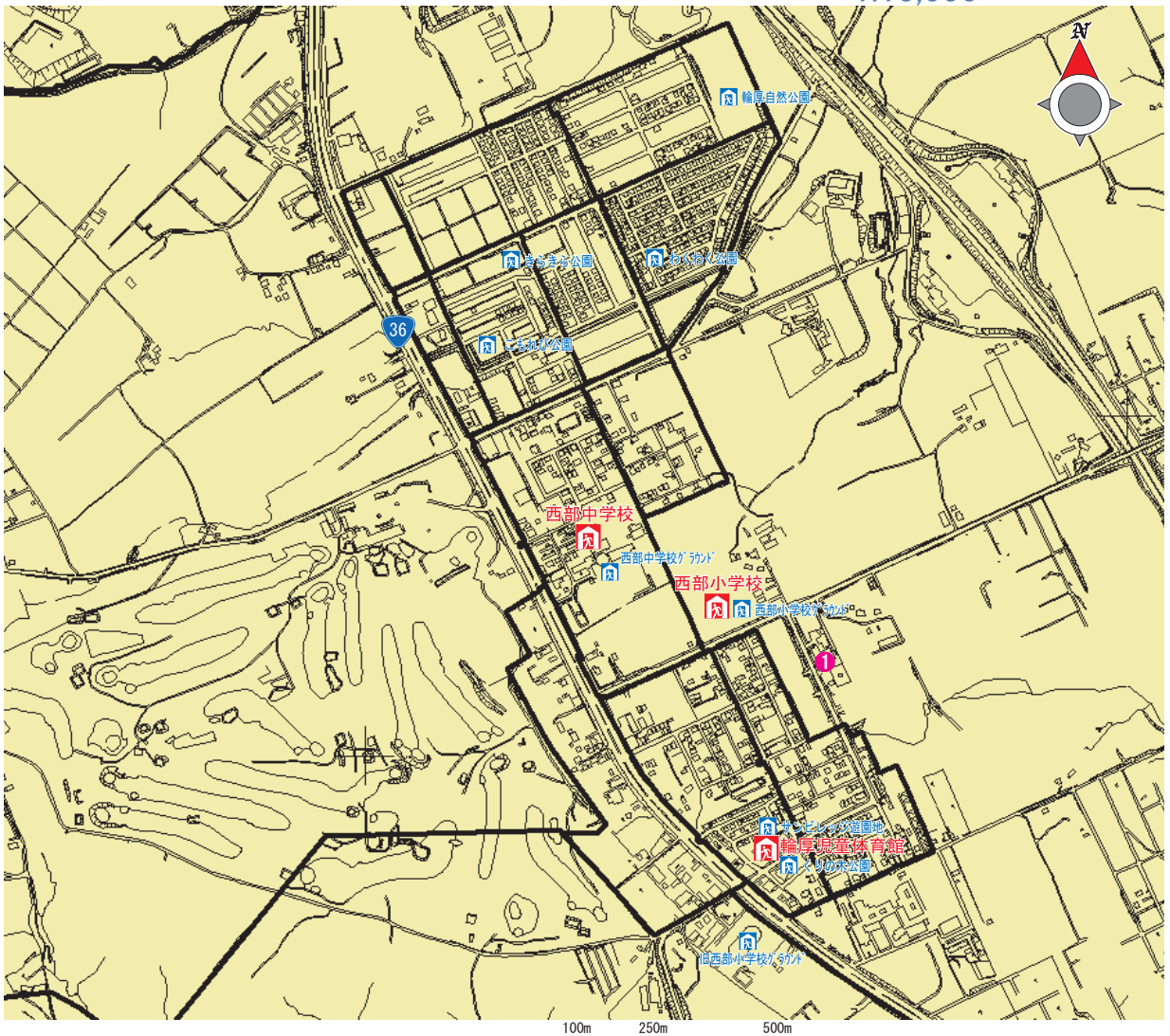
●助け合いの心が大切
力を合わせて消火活動、救出・救助活動
●水・食糧は蓄えているものでまかなう
3日分の飲料水と食糧を備蓄しておく。
●壊れた家には入らない
無理をして、二次災害を起こしてはいけない。
●災害情報・被害情報の収集
引き続き余震に注意

凡例

収容避難所	
一時避難場所	
病院・医療機関	①

地域の危険度マップ：輪厚地区

1:10,000



耐震診断について

地震が発生した場合、建物が倒壊する割合は、古い建物ほど高くなりますが、特に木造住宅では高い傾向にあります。

昭和56年5月以前の建築基準法、いわゆる旧耐震基準で建てられた住宅は、耐震性が低い可能性がありますので、専門家による耐震診断を行うことをお勧めします。

北広島市では、旧耐震基準の一戸建て木造住宅を対象に、耐震診断を平成20年度から、耐震改修は平成21年度から費用の一部に対して助成を行います。

収容避難所一覧（輪厚地区）

名　称	所在地	電話番号
西部小学校	輪厚508-3	376-2104
西部中学校	輪厚中央1丁目12	376-2252
輪厚児童体育館	輪厚中央4丁目12-19	376-3380

医療施設一覧（輪厚地区）

番号	医療機関名	所在地	電話番号
①	輪厚三愛病院	輪厚704-16	377-3911

危険度マップ表示位置図